西亞地方に於いてカルデヤ地方の人種と接近して居住せるものなるを說けるが如きは、アイヌが高加索人にして或はProto-Nordicsと共同起源を有すとなす所說に一歩を進め、ラクーペリー氏、ポール氏等の見解の新裝とも見る可し。此の興味ある大膽なる假說が日本人たる著者によりて唱道せられたるは、吾人の最も注意せんと欲する所にして、時機を得て吾人の之に關する態度を明にする所ある可し。要するに近時に於ける日本人種學考古學上の一大著と稱するは誰人も首肯する所ならむ。（東京帝國大學理科大學發行　價七、八〇）（以上濱田）

●熊本縣史蹟調査報告　第一回　熊本縣調育會編

熊本縣の史蹟調査保存の事業は一昨年初己來同縣教育會に屬し着々歩を進め、昨年末に至り其の第一回の調査報告を出せり。此の書菊版百五十餘頁、附圖三十一枚より成り、十數名の委員が大正六年九月より仝七年三月に亙る期間に於て調査せる貝塚、古墳城址、神社、佛閣、老樹、古文書、繪畫、佛像等の各方面に亙る記事を載せ、特殊の遺跡例へば阿高貝塚　江田の古墳等に就いては專門家の報告を掲げたり。其の包括せる代は上は石器時代より下は德川時代に及び、遺蹟の種類またあらゆる方面に亙りて、從來此の種の報告の多く一方に偏せるに反したるは、史蹟調査の主らず。こゝに論ぜんとする肖像畫は自然に對する觀察精緻とな

意より見て最も採るべき点と云ふべく、本書の內容また阿高貝塚の如き、八代中宮祠の寶篋院塔の如き、天草南蠻寺址の如き興味あるもの少なからず。印刷圖版共に鮮明なるも喜ぶべく、近時同樣主意の書の續々出版せらるゝに際し參考に資する所少からざるべし（熊本縣教育會發行　非賣品）（梅原）

●雜　誌

●足利時代と肖像畫　文學博士　原　勝郎

（國華三三三、――四號所載）

日本文明は王朝と德川の両時代に於てのみ進歩を成就したるにあらずして、亂離の極の如く見做さるゝ足利時代に於ても當時の人には後人の思惟する如く不安の念を與へず、時代の特殊なる文明は休止することなく發達を續けたり。足利時代は永享の末までを以て登り坂とし、嘉吉の義教將軍の弑逆を一轉として下り坂に就きたるものと見るべく。其初期に於ては已に經濟上の發達あり、餘裕ある生活と共に因襲は其勢力を失ひつゝありしなり。義教將軍は酷薄の名ありと雖織田信長以前已に山門の燒打を命したる如きを見ても新時代の魁をなす素質ある頃政治家たりしやも知るべからず。時代は下層民の頭を扛げ來ると共に個人主義が漸く地歩を占め來る時代なり。これ肖像畫の發達を遂ぐる時代なり。

佛畫より轉化したる人物畫はこゝに肖像畫として論ずべきに